

はじめに

本市においては、平成25年3月に「登別市地域福祉計画」を策定して以降、「登別市ぬくもりある福祉基本条例（平成25年4月1日施行）」に定める基本理念に基づき、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らすことができる「地域社会づくり」を目指し、市（行政）、市民、事業者等のそれぞれが役割に応じて、普段の生活の中で行われている支え合い、助け合いの一環として、地域全体で連携を図りながら様々な地域生活課題の解決に向けて取組を進めてきました。



この間も、地域福祉を取り巻く環境は変化を続け、社会的孤立や制度の狭間の課題、複合的な課題が表面化しており、地域福祉が果たすべき役割はより重要なものとなっています。

このような状況の中、本市においては、改めて地域の生活課題を見つめ直し、これまでの福祉施策をより充実させるとともに、「地域共生社会」の実現に向けた取組を推進するための指針として、このたび、2022（令和4）年度から2026（令和8）年度までの5年間を計画期間とする第3期目の「登別市地域福祉計画」を策定いたしました。

本来であれば、多くの市民参加のもと、懇談会やワークショップなどによる意見交換や関係機関・事業者等との協議の場を複数設けるなど、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し、皆で課題解決に向けた方策を見いだすことが大切であると考えますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、昨年度から1年スライドとなったこのたびの計画策定においては難しい状況にありました。

しかしながら、本計画の策定にあたっては、広く市民の意見を反映させるための組織である「登別市福祉のまちづくり検討委員会」をコロナ下にあっても書面や個別にお話をお聞きするなど、工夫しながら開催し、委員の皆様から貴重なご意見を多数いただくことができました。また、回数は限定されましたが、委員の皆様が一堂に会し、計画案に関して活発にご議論いただいたことは、大変有意義なものであったと嬉しく思っております。

本市の地域福祉を推進するにあたっては、これまでも登別市社会福祉協議会が策定する「登別市地域福祉実践計画（きずな）」と連動しながら地域全体で取組を進めてまいりましたが、本計画においては、市民・民間団体・行政が連携して進める福祉のまちづくりの一つのあり方をお示しできるよう、「きずな」との連動性を図示したほか、基本目標ごとに「きずな」における取組の事例等を掲載しております。

また、より多くの方に本計画に触れていただきたく、図や写真を多く活用することで、見やすく親しみやすいものとなるよう心がけました。

今後においても、より一層、関係機関や地域との強い結びつきを持って本市における地域福祉の取組を発展させていく所存であります。

結びに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました「登別市福祉のまちづくり検討委員会」の委員の皆様をはじめ、地域福祉に関するアンケート調査、パブリックコメントなどを通して貴重なご意見等をいただきました市民の皆様や関係機関、団体の皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年3月

登別市長 小笠原 春一

第3期登別市地域福祉計画によせて

市民の皆様におかれましては、日頃より地域福祉活動並びに登別市社会福祉協議会活動の推進につきまして、ご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本会では、市民と共に平成18年度から策定している登別市地域福祉実践計画「きずな」に基づき、「ひとりの幸せを希望に紡ぐきずなでまちづくり」を基本目標に掲げ、市民、関係機関・団体、行政等と連携を図りながら、きずな活動の推進に取り組んでおります。



この度、令和3年度に策定した第4期登別市地域福祉実践計画「きずな」は、当初、令和2年度の策定を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、本会が最も大切にしてきた市民による協議・対話を前提にした策定が難しくなったことから、策定年度を1年間延長させていただいたところです。

登別市におかれましては、これらの状況に深いご理解を示していただき、第3期登別市地域福祉計画につきましても、第4期きずな計画と連動を図り一体的な計画とするため、策定年度を合わせるなどの特段のご配慮をいただいたほか、両計画が市民一人ひとりにとって、幸せを感じながら暮らし続けられる地域づくりをめざす両輪の計画となるよう、第4期きずな計画の策定に対しましても、多大なご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

本会では、登別市民のおもいがつまった第3期登別市地域福祉計画と第4期きずな計画をもとに、行政はもとより、福祉活動実践者をはじめ、町内会や民生員児童委員、社会福祉法人や医療法人、NPO法人、福祉事業所、ボランティア団体、企業等すべての市民とともに連携、連動、連帯による「ふくしでまちづくり」を進めてまいりますので、今後とも市民の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
会長 山田 正幸

支え合い高め合う福祉のまちづくり

私たちの住むまち「のぼりべつ」は、海と山に囲まれた自然豊かな環境のなかで、子どもからお年寄りまで、障がいのある人もない人も、誰もが安心して暮らすことができる「温もりある福祉のまち」を合い言葉に、町内会活動や日頃の近所づきあいの中において、困ったときに支え合い、互いを認めて支え合うことができるような地域づくりを目指してきました。



しかしながら、現下のコロナ禍にあっては、市民の交流や見守り、生きがいづくりを目的として地域の各所で行われてきた多くの活動がこれまでどおりにいかず、歯がゆい思いをしながらも人と人とのふれあいを第一に考えて取組を進めている状況です。

このたび、私は、第3期目の地域福祉計画の策定にあたり、第2期計画に引き続き「登別市福祉のまちづくり検討委員会」の会長の任を拝命すると同時に、社会福祉協議会が策定する地域福祉実践計画における「きずな推進委員会」の委員長を兼ねることとなりました。

双方の計画策定にあたることで、行政や市民、町内会、関係機関、事業者等のそれぞれがその役割を見つめ直すとともに、お互いがまちの将来を見据えて意識を共有することの大切さを感じました。

また、地域福祉そのものが、地域住民の主体的な参加を大前提としていることから、その計画を皆で創り上げていくことによって、まちの地域福祉を推進していく気運の醸成につながっていくものと改めて認識したところであります。

計画の策定を終えたことで、「登別市福祉のまちづくり検討委員会」の一員としての任期は満了となりますが、今後はこの計画が福祉のまちづくりにどのように活かされていくのか、主に同委員会の委員で構成される予定の「地域福祉計画評価委員会（仮称）」に移行して、引き続き見守っていきたいと考えております。

最後になりますが、「登別市福祉のまちづくり検討委員会」を代表いたしまして、この計画の策定に携わってこられた関係各位に心から感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和4年3月

登別市福祉のまちづくり検討委員会
会長 田渕 純勝